
仮面

土堀 友

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

仮面

【Nコード】

N7141U

【作者名】

土堀 友

【あらすじ】

まずく仮面、現実から空想の世界へ・・・
全く別人格の私、病みつきになってしまう。

仮面

私は趣味で新劇に参加している。

きょうは舞台稽古の日。Ｔシャツ、ジーパン姿でスタジオに行く。そして、控室でメイクを落として役者の仮面を付ける。

私が演じる舞台は薄暗く、中央に一脚の椅子とテーブルが置いてあるだけ。テーブルの上には一輪のバラがコップに差しており、スポットライトが当てられている。観客席にはメガホンを握った怪しげな監督が一人、舞台の上を鋭く見据えている。照明が明るくなり、合図と共に私は左の袖から中央に出て行く。

「あ、何ということでしょう。こんなに尽くしているというのに、彼には『ありがとう』の一言も無いなんて」

私は大げさな身振りで叫んだ。

「真ん中に出過ぎだ、もう少し手前で止まって、そうそういいですよ。それから正面を向く時はパリッとやってね。両手は斜め下に突き刺すように。胸を張って腹はへこませるんだよ。空気をいっぱい吸って腹から声を出して。ヒステリックなセリフは、みつともないですよ。ハイ、もう一度やり直し」

監督の容赦ないメガホンが飛んだ。

私は同じ様なことを三度やらされた。

どうすればお気に召しますの。もうどうでもいいやと、ふてくされそうになると次に進む。この監督はいつもそうだ。決して納得していない、しかし妥協しなければと思っているに違いない。苦み走ったその顔が雄弁にこの状況を物語っている。

みすばらしい衣装を身に付けた男が、右の袖から出てくる。タッチャンこと竜也だ。彼はスルスルと前に出てきて、途中ちよっと立ち止まり観客席を見回す。中央に進み、手にした口ウソクをテーブ

ルの上に置く。

「悩める乙女よ、汝の気持ちはよく分る。しかし、見返りを求めてはならぬ」

タツチャンは牧師の役だ。監督は一回でOKのサインを出した。

どこに差があるのだろう、気まぐれな監督だ。

「それでは私の気がすみません」

タツチャンは帽子を取りながら静かに言った。

「これだけしてあげたのだから、ということに対して、同じだけ返しますという契約が成立していますか？」

私は大げさにうろたえて、観客に背中を向け、そしてまた正面に向きを変えた。少し困惑したように……

「これだけ尽くしたのですから、当然感謝すべきです。違いますか？ 彼が図々しいのです」

「そうでしょうか？ 私にはあなたの態度が傲慢に見えます。恩着せがましいとは思いませんか？」

タツチャンは両手を水平に広げ、貫録いっぱいに喋った。意外と声は少し高めで、伸びがあつた。

「では、どうすれば？」

「神を愛しなさい」

今度は低い声で重々しく喋った。舞台を丸く回って……

「隣人を愛すのです。隣人は愛を返さないかもしれませんが、しかし、神があなたを愛します。あなたは神に愛されるのです。幸せなこと、と思いませんか？」

「私に犠牲を強いるのですか？」

「いいえ、神を信じるのです。神はあなたを救うでしょう。これは契約です」

「愛も契約ですか？」

「当然です。愛すことは、愛されることが条件です」

「神を信じなければ？」

「神はあなたを救わないでしょう」

「なぜ？ なぜ私は救われないのですか」

「神との契約が、不成立だからです」

監督がメガホンを膝に二、三度打ち付けて「いいね、サチ子ちゃんいいよ。もう少しリアルにいこう。セリフをしゃべりながら、テーブルに近づいて。そうそう、いいね。タイミングを見て又元の場所に戻ってちょうだい。そうです、そうです、ハイもう一度いってみよう」と、注文を出した。

段々調子が出てくるのがわかる。私のところは、舞台の中にまろやかに溶け込んでいく。タッチャンも完全にノッテきて、荒々しい息遣いが伝わってくる。クライマックスの直前「ハイ、そこまで。よかったよ、きょうはおしまい。この次は間の取り方を研究しよう」と、監督のしわがれた声が響く。

あ、もう少しやりたかったのに

私はドレスの裾を引きずってそのまま舞台を降りてくる。体も綿のように疲れている。お疲れさんと、タッチャンがアイスカップを差し出す。グットタイミング、なんて気の効くことでしょう。つめたいアイスが解けていくように、私の心はゆるやかに仮想空間から現実の世界に戻っていく。

三か月前、この仮面で一度舞台に立った。突き刺さるような観客の視線に戸惑ったが、次第に大胆になった。アドレナリンがドバツと、でてきて、頭の中が真っ白になってしまう。この快感を味わったら、もう仮面は手離せない。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7141u/>

仮面

2011年7月8日22時13分発行